

## 令和6年度第2回千歳市公営企業経営審議会 会議録

日 時 令和6年10月29日（火） 14：00～15：30

場 所 千歳市水道局2階会議室

出席者 別紙名簿のとおり

### 1 開会

### 2 水道局長挨拶

### 3 水道事業・下水道事業紹介動画視聴

### 4 議事

#### (1) 報告事項

##### ① 令和5年度千歳市水道事業会計決算について

資料に基づき内容を説明。

(説明者)

経営管理課財政係 飯塚主任

#### 【質疑等】

(委員)

何点か質問する。まず、6ページの配水及び給水施設修理件数に記載されている凍結修理について、自分たちで回避できる方法、管理可能な部分はあるのか。

次に、9ページの蘭越浄水場見学者数及び名水ふれあい公園見学者数について、来園者が多い方が良く考えるが、年間の来園者目標があるのか。

最後に、10ページの流動比率について、比率が100%を超えており、短期的な支払能力に問題はないことがわかる一方で、傾向として年々下がっている。この要因について伺う。

(事務局)

まず、凍結の防止についてであるが、住居のトイレや給湯には必ず水抜栓がついている。水を抜く方法であるが、水抜栓を上げる等により、水を止めた後、蛇口を回すことで水が抜ける。これにより凍結が回避できる。毎年12月の市民カレンダー号外に「凍結に注意してください」というチラシが配付される。チラシにも水抜方法を掲載しているので、参考にさせていただきたい。

次に名水ふれあい公園の来園者数について、目標人数は想定していない。内別川河川内を歩くことができ、サケの遡上が間近で見られることから、多くの方に来園いただいている。

(事務局)

流動比率の低下について、令和5年度は、蘭越送水管更新工事、東千歳送水ポンプ場外機械設備更新工事や次世代半導体製造工場の建設に伴う水道管布設工事等の大型工事の支払が年度内に完了せず、今年度にずれ込み、貸借対照表の流動負債の未払金が多くなったため、前年度に比べて流動比率が低下している。なお、これら工事代金を5年度中に支払した場合の水道事業の5年度末での流動比率は、229.72%となり、前年度令和4年度を上回る結果となる。

(委員)

流動比率の低下は一過性の要因であることを理解した。凍結修理については、市民の一定の理解があれば減らせるものと認識した。更に周知を図っていただきたと思う。

(委員)

11ページの料金回収率について、費用が収益で賄えていないとのことであり、比率も他団体平均値を下回っている。よっていずれは水道料金を引き上げることとなるのか伺う。

(事務局)

まず、供給単価に比べ、給水原価が上回っていることについてであるが、給水原価と供給単価については事業の経営状況を客観的に捉えて、類似団体との比較を行うための統計資料として、総務省が作成した「水道事業経営指標」の一つの指標であり、全国一律の方法で算出するものである。これらの指標は全て「地方公営企業決算状況調査」において総務省に報告した数値を基礎として算出されるものであり、給水原価は、経常費用から長期前受金戻入等を控除したものを年間有収水量で除した結果の1 m<sup>3</sup>当りの費用であり、一方、供給単価は、年間給水収益を年間有収水量で除した結果の1 m<sup>3</sup>当りの費用である。

この数値は、全国一律の方法によって算出される指標であることから、「経常費用」の中には、「消火栓維持管理費」といった一般会計、市からの繰入金のほか、「下水道使用料徴収経費」、「退職手当負担金」などが含まれており、各地方公共団体が置かれている経営環境・特殊性といったものが反映されていないものとなっている。

また、これらの費用は、給水収益以外で賄っている費用であることから、「他会計負担金」、「その他営業収益」、「営業外収益」といった給水収益以外の収入が財源となる。経営指標に基づく給水原価の算出では、これら給水収益以外で賄っている費用が含まれていることから、「給水原価」が高くなるという傾向にあり、経常費用の中から、給水収益以外で賄っている費用を控除して再計算すると、「給水原価」は148.75円となり、「供給単価」よりも3.08円安いこととなることから、水道事業においては、現行の水道料金で賄っている結果となる。

次に、水道料金の引上げについてであるが、水道施設の老朽化が進むことや需要家の増減により、現行の料金を維持することの限界は来ることになるため、これを見据えて、5年に1度財政収支見通しを作成し、料金が適正であるかを検討することとしている。現在のところ水道料金の改定予定はないが、将来においては引上げを検討する時期が来ると考えている。

(委員)

水道料金の引上げに反対するものではない。適正な価格にする必要があり、無理して低い水道料金を維持するものではないと考える。

(事務局)

結論として、給水原価は、水道水を作る原価以外の費用が含まれているが、これを除くと3円ほど安くなり、結果供給単価を下回るため、費用が賄えている状況である。指標は全国一律の方法で算出され、このような数値となるが、水道については、供給単価で原価を賄えている。

② 令和5年度千歳市下水道事業会計決算について  
資料に基づき内容を説明。

(説明者)

経営管理課財政係 鈴木主任

【質疑等】

(委員)

23ページの経費回収率について、千歳市が低いとは思っていないが、国土交通省は経費回収率100%を上回るように求めていると思う。この点について対応しているのか。

また、質問ではなく意見であるが、給水収益、下水道使用料ともに増加し、利益を計上している自治体は少なく、大変素晴らしい公営企業会計であると認識している。一方で、多くの固定資産を使用する事業なので、減価償却費比率が極めて高くなる。この部分が経費回収率に大きな影響を及ぼすこととなる。減価償却費は最初に投資したら減らすことができないため、いかに適正な規模でかつ安価にするかが重要なポイントである。このため総務省指標にはないが、売上高に対する減価償却費比率を算出すると参考になる。減価償却費を売上高で割ると、売上高に占める減価償却費の割合が判明することから、売上高でどれほど減価償却費が賄えているかがわかる。いかにして減価償却費を下げるができるかという部分が大切であり、多くの自治体の赤字要因が減価償却費である。将来にわたって経営をしていく上で、できる限り投資を減らすことを考えてもらいたい。

前回の審議会で施設見学した石狩東部広域水道企業団から本市は水を購入している。団体が所有する建物について投資額が過剰と思えたが、この建設代金も水道水購入代金に含まれている。本市においては、このような過剰な投資をすることなく、適正な規模で事業運営を進めてもらいたい。このことから減価償却費比率を経年で見ることにより、様々な状況が判明すると考えるため、参考にしていただきたい。

(事務局)

下水道使用料のみでは汚水処理経費を賄えておらず、内部で留保している資金を活用して、事業運営をしている状況にある。現在、次世代半導体製造工場の稼働開始に伴うインフラ整備を実施しており、これにより借入企業債の支払利息や減価償却費が今後生じてくる。これらを賄うための方策として、まずは、料金の見直しの前に、投資額の平準化や経費の削減に努めていく。更には上下水道ともに現在立てている経営計画や施設更新計画に則って事業運営する。計画は一度作成してそのままにするのではなく、情勢を分析して適宜見直しをする。これらに基づき事業経営に取り組むこととしている。

(事務局)

下水道事業については、施設規模が極めて大きく、機械施設の更新などには数億円の投資を行うため、減価償却費が大きくなっていく。下水道設備は止めることができない施設であるが、更新費用については十分に考えていく。現状においては使用料収入で污水处理経費を賄っていない状況であり、内部留保資金を活用しながら事業運営をしている。当然このままでは資金が減っていくことになるが、次世代半導体製造工場からの排水による使用料収入を見据えながら、経営計画を立てて、損益分岐点や内部留保資金の残高状況により、適正な時期に料金の改定について経営審議会に諮ることとする。

## 5 その他

【質疑等】

(委員)

次世代半導体製造工場の稼働に当たり、北海道からの工業用水が使用されるようだが、本市で工業用水の検討や計画をしたことはあるのか。

(事務局)

本市では工業用水を作ったことはない。工業用水を作るのにも費用が掛かるため、検討をしていない。次世代半導体製造工場への水道水供給については、北海道が工業用水を元から持っていたため提供するものである。

(委員)

半導体事業関連で、更に企業が増加することが見込まれる。このような状況で滅菌処理する必要のない工業用水は安価に提供できると考えるが、本市で工業用水の供給を実施することができないものか伺う。

(事務局)

水を提供する大きな問題として水利権がある。現状として本市は今以上に千歳川から取水できない状況にあり、上流や下流域は本市以外にも権限がある。更に問題として、次世代半導体製造工場が令和9年度から量産体制に入る予定であり、本市に水利権があつたとしても工業用水を供給するための施設建設にそれ以上の期間が掛かるため、量産体制までに水を供給することはできない。このことから北海道を中心にして検討した結果、北海道の工業用水を使用することで水利権や水量の問題が解決できるとともに、半導体製造工場の稼働時期に間に合うという結論に至った。

## 6 閉会

以上